

【1】 学校教育目標と重点目標 「明るい学園 美しい心」

<p><b>学校教育目標</b></p>	<p>(1) 人格の形成 ・自然に親しみ、生命を守り育てる農業教育を通して、知・徳・体のバランスの取れた豊かな人間性を育てる。 ・個々の生徒の持つ能力を発展させ、自主的精神と実践力に富んだ、創造性溢れる人格の形成を目指す。</p> <p>(2) 社会人としての資質の向上 ・自らに誇りを持ち、平和で民主的な社会を目指す社会人としてふさわしい資質を養う。</p> <p>(3) 職業観の確立 ・一般教養やマナーを身につけさせると共に、農業や勤労体験を通して、正しい職業観を身につけさせる。</p>
<p><b>中・長期的目標</b></p>	<p>(1) 農業の持つ教育力を通して、体験的に自然環境や生命の大切さを身につけさせる。</p> <p>(2) 地域に根ざした信頼される学校づくりをすすめる。</p> <p>(3) 自ら学ぶ力を身につけ、進路希望が実現するように支援する。</p> <p>(4) 社会常識やマナーを身につけ、社会で自立できる人材の育成に努める。</p>
<p><b>今年度の重点目標</b></p>	<p>(1) キャリア教育について理解を深め、さらなる推進を図りながら、進路実現に向けた支援を行う。</p> <p>(2) 学力向上、学力保障の体制を整える。</p> <p>(3) 明るい学校を目指すため、積極的に活動を展開し、コミュニケーション力を養成する。</p> <p>(4) 人権尊重の視点に立った学校づくりを推進する。</p>

【2】 今年度の重点活動及び総括

重点目標	該当部署	評価項目（重点活動）	評価の観点（具体的活動内容）	自己評価	自己評価に関する分析（来年度に向けて）
キャリア教育・進路指導支援	(1) 農業科全体	キャリア教育の充実	10のコースが特色ある授業を展開し、プロジェクト学習、校内及び校外実習、資格取得、地域交流などを通して勤労観・職業観及び職業人としての基礎的な能力や資質を身につけるように指導する。	A	10コースが特色ある授業を展開できた。プロジェクト学習ではワイナリー・綿花など地域と連携した研究活動が増え、内容が充実してきている。キャリア教育では就業体験学習の機会を増やすことができた。各学科、コースの特色を生かして、関連の企業への就業を進めるため、今後も継続して取り組んでいきたい。生徒自身がコース学習で取り組んできた専門分野の内容を生かして、キャリアデザインを描き、進路実現につながるように、計画・実行・評価・総括をしっかり行いたい。
	①園芸科	勤労観の養成	栽培の基礎知識・技術の習得と職場体験や校外活動に積極的に参加させ勤労観を養う。	A	園芸作物の栽培の基礎知識や栽培技術が習得できた。また各コースで地域の職場での実習や校外活動を行い、勤労感が養うことができた。一年先の自分を見据えて実習先に参加させるように指導する必要がある。
	②食品科学科	地域産業の理解と地域連携の推進	特色ある地域資源を生かし、地域との連携を深め、商品開発に向けた活動を進める。	A	コース実習や課題研究において、ワイン・果物や農産物加工・地域酵母の探索など、特色ある地域資源を生かし、更に商品化に向けて取り組むことができた。今後も、様々な地域資源の活用について研究して地域との連携を図りたい。
	③農業経済科	資格取得の推進と積極的研究活動	各種検定上位級の合格を目指した指導を行う。校外で研究活動を充実させ、研究成果を積極的に発信するとともに、企業との共同研究及び連携事業を進めていく。	A	全経簿記検定3級10名、2級8名と目的通り合格させることができた。日商簿記検定3級も10名の合格者が出せた。朝・放課後の課外学習で成果を上げることが出来た。水稻の研究は農く県大会で3年連続優秀賞以上を受賞した。また、地粉を使ったパンの販売や研究・商品開発の発表も県外でも行いとても好評であった。

	④造園科	地域連携と職業意識の深化	地域と密着した特色ある授業を展開する中で、職業に対する意識を深めさせる。	A	造園技能検定の実技練習では地元造園業者から継続した指導を受けることができた。長野県建設業協会の協力のもと測量、土木実習や、現場視察を行った。コース週間では地元造園業者での現場実習により造園業に対する意識を深めることができた。臥龍公園桜樹勢回復実習、須坂駅前ロータリー刈込実習等地域と密着した活動も継続して行うことができた。また、造園関連会社へ13名が就職し、造園業への職業意識向上が図れた。
	進路指導係	進路に対する意識を高める	企業研修、企業訪問、農家研修、進路講話等を通じキャリア教育を推進しながら進路に対する意識を高める。	A	3学年の進路指導では、個別指導等を中心に、進路講話・各種研修を通じて進路に対する意識を高めることができた。2学年に対する指導も早期に個別面談を行って、意識付けを図った。
	教務係	キャリア教育推進のための支援	キャリアウィーク特別時間割の作成に当たって、キャリア教育担当者・学年・教科等との調整を行い円滑な推進を支援する。	A	1学年は産業基礎の中で、2・3学年はキャリアウィーク期間に、各学年が生徒の実態に即した内容を企画して、有効なキャリアウィークを行えた。
	2学年	職業理解・進路選択	研修や講演会を通してそれぞれの特徴を知り、自らの進路選択・実現に役立てる	A	就業体験に多くに生徒が参加して自分の進路に目を向けることが出来た。希望する進路実現に向けて、さらに深く理解させ、行動できるように指導していきたい。
	3学年	進路実現への具体的取り組み	企業見学(研修)、オープンキャンパス、進路講話その他進路学習等を積極的に行い、自分にふさわしい進路選択の取り組みができる環境を整えていく	B	進路中心となり、生徒自身が積極的に参加させることができたので、概ね良好だった。
学 力 向 上 ・ 学 力 保 障	(2)	国語科	「話す・聞く」力の向上	B	授業の中で聞く人に伝わるような話し方を意識しながら指導を行ってきた。自分の考えを伝えることに消極的な生徒が多いが、発表の機会を増やして慣れさせることも必要である。
	地歴公民科	授業での学力向上、学力保障	授業内容、授業方法の工夫をしながら、基礎知識を理解させ、定着を図る。	B	授業内容を精選しつつ、小テストや読み書きの確認なども行なっている。基礎力の理解・定着のためには、繰り返しが必要である。
	数学科	授業内容の定着、個別指導の徹底	授業内容の定着を図るため、少人数の習熟度別授業を展開し、補習や個別指導を行う。	B	標準を下回る単位数ではあるが、少人数講座編成を行って不得意な生徒に手厚い体制で指導にあたった。不振な生徒には複数回の追試験のチャンスを作って指導を行った。数学検定にチャレンジさせて成果を上げた。
	理科	授業内容の定着、学力保障	中学の学習内容を含めた授業の内容、指導方法を工夫し、基礎知識の定着を図る。	B	各単元毎に、中学校で学習した内容を確認したり、時には、中学校での学習を再度学習してから進めることもあった。興味を持たせることはできたが、知識の定着を図るためにより一層の指導が必要であった。
	英語科	「読む・書く」力の向上	単語練習(テスト)や音読練習(テスト)を継続する中で基礎力の向上や英語を前向きに使うとする態度を身につけさせる。	B	基礎力を付けて英語に対する苦手感を軽減できたが、上位の生徒を伸ばす指導が必要である。
	家庭科	基礎的な技術・知識の定着	知識として学んだことを、実習を通して身につけられるよう働きかけ、基礎的技術の定着を図る。	B	実習によって興味を持たせることはできたが、知識の定着を図るための指導が必要であった。
	芸術科	授業内容の定着	生徒一人一人に応じた具体的な個別指導を行い、授業内容の定着を図る。	B	実習を通じて基礎内容の理解を確認しつつ、個々に応じた指導を行った。実技の経験が少ないと鑑賞力も身に付かないので、実技で様々な経験を積み学ぶことを続けていきたい。

	保健体育科	基礎体力の向上	体力作りのための運動を毎時短時間行い、基礎体力の育成を図る。	B	スポーツテストの結果等で体力向上が見られた生徒が多数いる。強歩大会がなくなったので、若干向上が見られた場面が少なかったように感じる。	
	農業科	農業に関する基礎的・基本的な知識の習得	農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を習得させる。	B	生徒1人ひとりがコース選択のための農業分野に関する基礎的・基本的な知識の取得から、コース学習で専門分野の内容を理解する知識の定着につながる仕組みづくりについて、今後も検討する必要がある。	
	2学年	朝学習の継続と家庭学習の充実	朝学習を継続すると共に各教科の宿題課題を行い、学力向上を図る	B	朝学習が定着して、学習への意欲も高まった。進路実現に向け、さらに毎日の学習意欲を高めたい。	
	3学年	朝学習の主体的な取り組み3	毎日継続して粘り強く取り組み、基礎学力の向上を図る。特に苦手としている分野にも力を入れる。	B	朝学習に関しては、時間の確保はできたものの、学力向上にはあと一歩ではなかったかと思われる。しかし、継続することに大きな意味をもつ。	
	学習指導係	学力向上・学力保障の体制作り	「学ぶ姿勢」をつくり「基礎学力」をつけるとともに、補習の充実を図る。	B	朝学習は全学年定着することができ、落ち着いて学校生活を送れる態勢になっている。一方、進学補習の更なる充実が必要である。	
	生活指導係	学ぶ姿勢、学習習慣をつける指導の徹底	特に1学年において、学年および学習指導係と連携し、組織的指導を実施する。	B	学年との積極的な連携において、ほぼ目的を達成できた。	
	教務係	朝の基礎学習を含めた毎日の学習活動及び行事の計画と実施	年間計画の下、日頃の教育活動を通じて生徒が成長できるよう授業・行事が滞りなく行えるよう各部署と連携して計画し、実践する。	A	開校した「須坂創成高校」と伴に年間計画にしたがって、日々の授業・各教育行事を行うことができた。来年度は、須坂園芸高校の閉校に向けて充実した教育活動を進めていきたい。	
(3)	コミュニケーション能力養成	2学年	クラブ・委員会活動への積極的な参加	B	それぞれの活動で協調しながら、意見を出したり相手の話にも耳を傾けたりするなどして取り組む	新執行部員がリーダーとなって活発な生徒会活動を行いつつある。最終学年として、成果を出せるように指導していきたい。
		3学年	社会の一員となる態度の育成	A	卒業を意識し、自らの言動に責任を持ち、社会の一員として周囲に溶け込んで責任を果たしていくために、周りへの気配りに努め、礼儀正しい挨拶や相手の立場に立った考え方で行動する。	3年間の成長は見られた。これからは、何のためにするのか、なぜそうしなければいけないのかなど、自分自身で考えながら行動することを期待する。
		生徒会	生徒自ら行う挨拶運動の推進	A	執行部や委員会の立ち番活動での挨拶運動や、日ごろの学校生活における挨拶全般を推進し、生徒全員が自ら進んで挨拶できるように指導する。また、教職員も生徒に積極的に挨拶することで、その実現を後押ししてもらう。	生徒会選挙によって選ばれた役員が中心になって活気ある執行部が活動を始めている。今後も全校生徒を巻き込んだの自主活動が期待できる。
		農業クラブ	コミュニケーション能力の向上	A	校外イベントに積極的に参加し、農業クラブをPRしながら、コミュニケーション能力の向上を図る。	例年行って来ている善光寺花回廊、玄照寺苗市、県緑の基金等校外との関わりを持って活動を出来た。園芸高校の農産物販売や子供広場の設置をするなど、PR活動も行った。こうした活動の中、生徒は積極的に校外の方々とのコミュニケーションをとることが出来た。

	農業科全体	地域に開かれた学校づくりの推進	専門高校としての特色ある事業を展開し、地域との交流を深め、開かれた学校づくりに取り組む。	A	市民農業大学校を園芸塾を実施して7年目となる。須坂市に在住の一般市民（8名）が生徒共に授業を受ける「オープン授業」を行い、野菜栽培の基礎となる栽培方法を学ぶということだけにとどまらず、我々の命を支える「食糧」やその基盤となる「農業」・「農村」の重要性を広く市民の方に知っていただく機械となっている。また、信州すずか農業小学校では、小学生に対して農業の技術指導を実施した。本年度で4年目となる長野電鉄との緑化に関する協定では、これまで施工した緑化プランの管理を中心に実施した。地域のイベント（農場生産物・加工品の販売、須坂市クリスマスツリーでの生徒発表、飾花・植栽活動等）で、今年も大勢の生徒が地域の行事に参加した。コース週間・夏期・春期における企業研修（キャリア教育）では、多くの地元企業にお世話になり、生徒は現場での体験を通して人間的に成長できた。今後も地域連携を継続し発展させたい。
	生徒指導係	学ぶ姿勢、学生としてのとるべき態度の指導強化	場をわきまえた礼節のある身だしなみとコミュニケーションがとれるように指導する。	A	学生としてとるべき姿勢と礼節・挨拶についてはほぼ達成できており、来校者から高く評価されている。引き続き生徒に働きかけてコミュニケーション能力の向上を図りたい。
(4) 人権尊重の推進	全生徒 全職員	人権尊重の視点に立った学校づくりの推進	あらゆる教育活動において、人権が尊重される学習活動を通して日常的な人権教育を推進し、生徒が互いのよさや可能性を認め合える仲間づくりを行う。生徒が安心して学べる環境を創れるよう教職員の人権意識の高揚を図る。	A	学校生活の様々な場面において、教職員一人一人がもつ公正な人権感覚と、生徒の個または集団が規範意識を高めることで、全生徒に良好な影響と関係を与えている。今後も教職員の人権感覚を磨きながら、生徒同士、生徒と教職員、教職員同士の仲間作りを推進していき、人権尊重の視点に立った学校づくりを推進して行きたい。